

7月3日付本紙の書評欄「ほっと一冊」

しようか。

に戸門秀雄の『川魚』という本が紹介されてきました。早速、大冊を購入して読みました。その中に、新潟の浦佐にある「たんぽぽラーメン」という店の「鮎干しラーメン」が紹介されていました。新潟で会合があったのを機会に越後湯沢の次の浦佐駅に降り、浦佐温泉に前泊して1杯700円の

子供のころには見た記憶のないアオサギや白いサギ、黒い小さなカワウのような水鳥もよく目にするようになり、彼らに食べられてしまったのでしょうか。見ると、小さな水鳥の周りをサギが取り囲んでいきます。水鳥が潜って魚を追い出すのを待って、おこぼれをもらう魂胆のよ

ラーメンを食べに行きました。普通の

うに見えます。

川魚はどこへ

子供のころは町内に

のラーメンの汁にアユのだし汁を加えたようで、ほのかにアユの香りもして独特の苦みもあり、おいしいものでした。

川魚を捕って生業にしているおじさんがいましたし、小さなお店も幾つもありました。今は皆が勤め人です。お店もなくなりました。昔のほ

昭和30(1955)年から始まった女鳥

うが、人が多様な生き方ができたように思えてなりません。

羽川の大改修工事以前は、私が住んでいる女鳥羽川と田川の合流点でも、春の解禁日にはアユ釣りの人たちがいっぱいでした。

赤魚(ウグイ)も黒く固まって泳いでいます。あの魚はどこへ行ってしまったので

(松本市白坂1、平岡武、77歳)

口 差 点

こうさてん